

Let's learn English

新版

みんな で 英語

はじめの一步を踏み出そう

1

はじめに

英語の基礎工事にとりかかろう！

このテキストを開いた人には、それぞれの思いがあるはずです。

- ・ 仕事で英語が必要になり、なんとかしなくてはと思っている人
- ・ これから英検や TOEIC に挑戦していこうと思っている人
- ・ 英語でコミュニケーションができるようになりたいと願う人
- ・ 趣味と実益を兼ねて英語をものにしたい人
- ・ どこかでつまずいて英語嫌いになったけれど、一念発起、今度こそ真剣に取り組みたいと思っている人

どんな思いを抱いているにせよ、まず必要なのは英語力の基礎固めです。基礎工事は「突貫工事」であってはいけません。途中でつまずいたのは、どこだったのか。過去形、未来形までは理解できたのに、現在完了が出てきて急に英語がわからなくなった、現在完了まではなんとかついていけたが、関係代名詞でトンネルに入ってしまった——そうした原因が何かあるはずです。

こうしたつまずきの原因を乗り越えないまま、まあいいやと思って進もうとすると、また同じ壁に阻まれてしまいます。焦ることはありません。階段を1段ずつ上がっていきましょう。ときには1段降りる勇気も必要です。

幸い、あなたには中学で習った英語の知識があります。この貴重な財産を生かさない手はありません。「もう忘れてしまったよ」などと言う人がいるかもしれませんが、10代で学んだ知識は、思いのほか深く身についているものです。このテキストを読み進めるうちに、あなたの奥深くにストックされていた断片的な知識も、きっと整理されてくるでしょう。そこにフレッシュな知識や情報を加えて補強してあげる。これで英語力の基礎工事は完成です。

さあ、英語力の基礎固めに向けて *Let's learn English.*

Unit I 英語の使い手とは動詞の変化についていける人	5
Lesson 1 動詞の働きは「です」「ある」「する」	6
2 be 動詞は「人称」と「時」で決まる	8
3 否定も疑問もルールは単純な be 動詞	10
4 「ある」型の文も原則は同じ (be 動詞)	12
5 「する」型文章の核になるのが一般動詞	14
6 一般動詞の否定文と疑問文には助動詞 do	16
7 一筋縄ではいかない一般動詞の過去形	18
8 実況中継・いままにしています (進行形)	20
9 未来に向かって will と shall	22
10 目的語の立場で考えるのが受動態	24
11 「驚いた」は「驚かされた」と表現する	26
Exercise 1	28
Unit II 助動詞は、動詞を助けてニュアンス豊かに表現する	29
Lesson 12 自信を持って “Yes, I can.”	30
13 will, shall, do のちょっと違った使い方	32
14 「してもいいよ」「かもしれない」の may	34
15 「ねばならぬ」「～に違いない」の must	36
16 過去形なのに「いま」のこと? (should, would)	38
17 助動詞扱いで覚えておきたい ought to と had better	40
Exercise 2	42
Unit III 英語で名詞を扱うときは、いつも「数」を意識しておく	43
Lesson 18 名詞は5つのグループでとらえる	44
19 複数形の基本パターンを押さえよう	46
20 ますます奥が深い単数・複数	48
21 数えられない名詞はどう数える?	50
22 個性がいろいろの固有名詞	52
23 同じつなぎ役でも意味が異なる接続詞	54
24 接続詞 that でつないだときは「時制」に注意	56
25 前後関係に要注意の接続詞	58
coffee break ●日本人がつくったヘンな英語	59
Exercise 3	60
Unit IV 「あれ・それ・これ」は何を指す? 迷子にならないように	61
Lesson 26 人称代名詞の「格」に慣れよう	62
27 指示代名詞は this と that を正しく使い分けよう	64
28 文がくどくなるのを避ける所有代名詞	66
29 こんなに便利な it の用法	68
30 漠然と不特定の人やものを指す不定代名詞	70
31 冠詞のつけ方でおろおろしたくない	71
32 the の原則と特殊な用法	72
33 冠詞がつかないケースを整理しておこう	74
Exercise 4	76
coffee break ●大きな誤解を生むこんな思い込み英語	77
Exercise の解答	78

Unit I

動詞 進行形 未来形 受動態

英語の使い手とは 動詞の変化についていける人



文の核となる動詞は、主語の「人称」や「時」によってさまざまに変化します。これは動詞の「活用」と呼ばれます。動詞を数多く覚えることも大事ですが、基本的な動詞の活用を覚えることはもっと大事です。進行形や受動態を表すにも現在分詞や過去分詞の形を知っておく必要があります。英語の使い手は、正しい形の動詞をズバリと言える人です。

Lesson 1

動詞

動詞の働きは「です」「ある」「する」

動詞といっても、いつも「動き」を表すわけではありません。まず、簡単な日本語の文章を見てください。

- ① 私は先生だ。
- ② 諸君は生徒である。
- ③ ここにパソコンがあります。
- ④ 彼女の持っている料理の本には役に立つレシピがたくさんあります。
- ⑤ 私は朝、パンを食べています。
- ⑥ 先生は歩いて学校へ行きます。

私たちは日常、こんなことを話したり、書いたりしています。これらの6つの文章を注意深く見てみると、文章の最後の部分、つまり「述部」によって3つのタイプに分けられることに気がつくと思います。

①と②の文章は、おしりの部分が「～だ」「～である」で終わっています。便宜上、これを「**です**」型の文章と名づけます。

③と④は、「～がある」「～がいる」というように存在を表している文章で、これを「**ある**」型と呼ぶことにします。

④と⑤の文章は、どちらも「だれが何をする」という形です。これは、「**する**」型の文章と名づけておきましょう。

では、それぞれを英語の文章に変えてみましょう。

■be 動詞で「です」型文に

- ① I **am** a teacher. (私は先生だ。)
- ② You **are** students. (諸君は生徒である。)

この2つはどちらも「です」型の文章で、**am**、**are** という動詞を使っています。この2つの動詞はどちらも「**be 動詞**」です。主語が **I** なら **am**、**you** なら **are** というように、主語の人称によって形が決まっています。